

平成27年度 県小教研学習指導改善調査【結果分析】第6学年国語

1 調査結果の分析

(1) 資料選択について (①～④)

ア 資料を読み取る力 (①～③)

①の正答率は45.3%ですべての設問の中で一番低い正答率であった。「環境保護レンジャー石川さんへのインタビュー」を読み、石川さんが話した外来種の種類の数について答える設問である。カギ括弧で括られている生き物の名前を読み取り、「六つ」の外来種を選んでいれば正答であった。誤答は、「五種類」「七種類」が多かった。植物を入れずに五種類としたか、カミツキガメとミドリガメをまとめて五種類としたか、またクロメダカを含めて七種類としたか、ミドリガメとミシシippアカミミガメを分けて七種類としたというものがあつた。

いずれも正確に文章を読み取れないことが要因と考えられる。また、「六種類」は読み取れたが、算用数字で解答している児童が多く見られた。漢数字と算用数字の使い分けなど正しい日本語表記を日頃から意識させることが必要である。

②の正答率は87.5%、③の正答率は88.2%とどちらも高かつた。外来種について「入って来た理由」と「外来種が引き起こす問題」という観点が思考ツールマトリクスにより明確になり、対応させながら考えることができたためと思われる。

イ 資料を解釈する力 (④)

正答率は、76.6%でやや高めだつた。資料二のエ〜クを読み、資料から「在来種を保護する」取組についての資料を二つ選択する設問であつた。誤答の多くは、資料カ「アライグマ捕獲調査から」を選択していた。問いの「在来種を保護する」という言葉に着目すれば、資料の中から似た言葉を探し選択しやすかつたと思われる。資料カを選択した要因は、「捕獲」と「保護」の意味を間違えたことからとも考えられる。

(2) 記述問題について (⑤～⑩)

⑤～⑩は、読み取つたことを基にして、自分の考えを論理的に記述する設問である。指定された文字数に達しないと⑤が誤答、⑥以下がすべて無答となる。

ア 制限時間内に指定された文字数で意見文を書く力・・・⑤

正答率は86.2%と高く、指定された文字数以上で書く力が高まってきたと考えられる。また、無答率も3.4%であり、文章を書こうとする態度や意欲も育ってきたと考えられる。今後は、指定の文字数に達しなかつた児童(誤答率10.4%)、全く書けなかつた児童(無答率3.4%)への指導(型や形式を教える等)を考えていく必要がある。

イ 資料を活用して書く力・・・⑥

正答率は57.8%で低めだつた。誤答の傾向は、第二段落・第三段落に、資料の記号を入れて書くことはできるが、自分の意見を書くことができない誤答が多かつた。必要な資料を選択することはできるが、自分の意見に活用する力は不十分であると考えられる。学習の中で、読み取つた内容に対して自分の考えを補足・強化するために資料の活用をする学習を位置付ける必要がある。

ウ 段落を構成して書く力・・・⑦

正答率は75.4%。昨年度6学年の同項目が77.8%であり、ほぼ昨年と同様の結果だった。「始め—中①—中②—終わり」の構成で文章を書く力が付いてきていると考えられる。しかし、誤答（誤答率13.3%）の中には、一字下げができていないというものが依然としてあった。

エ 根拠を明確にする力、記述する力（非連続型テキストの活用）・・・⑧

正答率は55.8%で低かった。この設問は、選んだ資料の数値を根拠にして、自分の考え（解釈や意見）を記述するというものである。数値は記述しているが、その数値の変容を用いて自分の考えを記述していない誤答が多かった。非連続型テキストを読むときには、数値の変容に着目し、変容が意味するものを解釈・吟味する段階が必要である。学習活動においては、記述の前に資料の咀嚼・吟味の段階を経て、解釈を加えるステップを踏み、記述へつなぐなど思考過程を大切にしていける必要がある。

オ 根拠を明確にする力、記述する力（引用）・・・⑨

正答率は54.6%で低かった。この設問は、選んだ資料の部分引用を根拠にして、自分の考え（解釈や意見）を記述するというものである。⑧の設問と同様に、資料からの部分引用の記述はあるが、自分の考えを書いていないという誤答が多かった。資料の解釈が不十分なため、根拠として明確にとらえきることができずに、自分の意見の強化に活用しきれていない。自分の意見を明確にすることと、その強化のために何をどう活用するかという根拠の活用を目的として、質のよい資料を準備し、「読み取り→解釈→自分の考えの根拠として活用する」という学習を積み重ねる必要がある。

カ 筋道立った構成で書く力・・・⑩

正答率は59.0%で低めだった。この設問は、「終わり」に「中」の根拠（資料）につなげて自分の考えを記述するというものである。誤答の多くは、「中」の根拠にふれた記述になっていなかった。「以上のことから、外来種をくじょするべきだと思います。」や「このように、在来種を守っていくことが必要だと思います。」というように資料にふれていない記述が目立った。活用した資料をしっかりと読み取っていないため、根拠があやふやで適切にまとめることができなかったと考えられる。「終わり」に「中」の根拠につなげて自分の考えを述べる力を付けさせるには、資料から読み取ったことが自分の意見にどう関係するかを関係付けする過程を段階的に学習することが必要である。

2 今後、重点的に指導してほしい活動

(1) 国語科の学習で

- 長文を読む機会を増やし、キーワードを円で囲んだり、線を引いたりすることを習慣付けること。
- 資料から読み取ったことを考察する（資料そのものの吟味・読み取ったことと自分の意見を関係付ける）思考過程を段階的に学習に組み込むこと。
- 記述問題で無答の児童を減らすために、書いて伝えることの楽しさや喜びを感じられるような活動を経験させ、書く活動につなげること。

(2) 他教科や総合的な学習の時間で

- 図表やグラフなどの非連続型テキストから情報を読み取り、事実や数値から分かることから、解釈や意見を付け加え、自分の考えにつなげる学習活動を充実させること。
- 思考ツールを活用した授業を実践し、情報を比較・分類・多面的に見る・関連付ける・構造化する・評価するなどの思考スキルを習得させること。